

第54回 全日本聾教育研究大会
(埼玉大会)
開催要項



全日本聾教育研究会
J.A.E.R.D



全 日 本 聾 教 育 研 究 会
関 東 地 区 聾 教 育 研 究 会
全日本聾教育研究大会(埼玉大会)実行委員会

2020(令和2)年10月8日(木)~9日(金)

開催方法の変更について

新型コロナウイルス感染症の蔓延と拡大に伴い、学校生活は一変しました。臨時休業や外出自粛などの制限を受ける中、感染症の収束は長期戦を覚悟しなければなりません。埼玉県は非常事態宣言発出により特定警戒都道府県となり、密集・密接・密閉を回避しながら会員参集型で埼玉大会を開催することは困難な状況となりました。しかしながら「ピンチはチャンス」であり、三密を回避するために様々な角度から運営方法を検討した結果、動画配信やオンライン会議システムを活用したWeb会議に変更すれば、開催することが可能であるとの結論に至りました。

Web会議に変更することで、全国の会員が参加できるチャンスが増え、聾教育に携わる教員の学びと研究を力強く後押しすることができると確信しています。また、準備を進めてきた主管校においてICTへの理解が一気に深まっているように、埼玉大会を通して全国の聾学校におけるICTの活用が加速することを期待しています。

そのためには、全国聾学校の校長先生方をはじめとする会員のみなさまのご理解と、各校の校内研修などにおける協力体制の構築が不可欠となります。大会開催日までの間、各関係機関や会員の方々からの様々なご意見に耳を傾けながら改善を重ねて準備してまいりますので、何卒よろしく願いいたします。

埼玉大会実行委員長 桑原 智子

第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会）開催要項

1 大会名称 第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会）

2 大会主題 「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」

〈主題設定の理由〉

社会の変化に対応し、人生の幅を広げるため、問題に直面したとき自ら対処するために、「学ぶ力」「生きる力」を育むことが必要である。そのためにはどうしたらよいか、聴覚障害児に対する教育の課題や成果、聴覚障害教育の専門性と新たな展望について考えていきたい。

多様化し変化の激しい社会の中で、より良く生きていくためには、学校で身につけた知識や技能だけでは十分ではない。自ら必要な情報を取捨選択し、活用して新しいことを学んだり、これまでの知識や技能を学び直し、深めたりすることが必要である。また、学ぶことは、その人の生き方の幅を広げ、豊かにすることでもあろう。学校教育では、子どもたちに知識や技能を教えるだけでなく、自ら「学び」を広げ、深めることができる力を育むことが求められている。現在では、ICTなど自ら学ぶことができる技術が普及し、一人ひとりが自分なりの「学び」を広げたり、深めたりするための環境が整いつつあるのは喜ばしいことである。しかし、それらを利用するためのリテラシーや基本的な言語力・学力については、今も多くの課題が見受けられる。

また、現実社会で生きていくためには、「学び」に加えて「生きる力」も重要になってくるであろう。特に聴覚障害児にとっては、聞こえない、聞こえにくいために直面するさまざまな生き難さや困難があるために、それらの課題に自ら対処していきける力が一層必要になってくる。「生きる力」を育むためには、自ら思考・判断・表現（行動）できるような主体性、自分を大切に自己認識・障害認識、人間関係を調整できる社会性、環境をより良くしていくエンパワーメントの力などの資質・能力や意志を育てていく必要があると考えられる。「生きる力」は、一人ひとりの「生き方」にも深く関係するものであり、その人らしい「生き方」についても考えたい。しかし、「生きる力」についてもろう学校の少人数化により経験やコミュニケーションの幅が狭められるという困難な状況も見受けられる。

このような課題や困難な状況にどう対応していったらよいか。そのためにはこれまでのろう教育の専門性を大切にしながら地道な努力とともに、学びの個別化やテクノロジーの活用、共同学習など集団を広げての活動などの新たな構想を展望することも必要になってくるのではないと思われる。

「学びを深め、生きる力を育む」ためのろう教育の伝統や専門性、そして新たな展望を考えていくために本主題を設定した。

3 新型コロナウイルス感染拡大防止のための開催方法の変更点

- (1) 埼玉大会は、Web会議システムを利用して開催し、参加者を埼玉会場参集形態から、所属校において参加できる形態に変更します。各都道府県のICT環境状況を把握した上で、配信方法については改善を重ねていきます。
- (2) より多くの会員が参加できるよう、全国聾学校の校長先生方の協力を得て、在勤公署における校内研修と兼ねるなどの体制を整備して実施します。
- (3) 記念講演や授業公開は、ライブ配信やオンデマンド配信等で提供します。
- (4) Web会議システムは、「Zoom」「YouTube」配信等を予定しています。Web会議システムを利用した大会参加方法の詳細につきましては、大会通信次号にてお知らせします。併せて在勤公署での可能な受信環境等を大会事務局で把握し、問題点を関係者の協力を得ながら解決していきます。
- (5) 指定授業は大会ホームページからダウンロードして事前に視聴できるようにします。ダウンロードにあたっては、個人情報の取扱いを徹底するため、ファイルにはダブルセキュリティをかけます。なお、公開授業も同様の形式で視聴できるように準備します。
- (6) 授業研究分科会はWeb会議システムを利用し、質疑応答や意見交換ができるようにします。助言者は、原則として指定授業が行われた会場から参加します。

- (7) 研究協議分科会の14分科会は、参加希望者の集計結果によって運営方法を変更する可能性があります。その運営は、大宮会場・坂戸会場を基点に実施し、助言者と参加者は所属校からWeb会議システムにて参加します。
- (8) 当日、不測の事態（自然災害や大規模停電等）により大宮会場・坂戸会場周辺インターネットが不通となった場合は、後日指導助言者の資料等のまとめを、所属校を通してメールにて配信します。
- (9) 緊急事態宣言の状況や休校措置等、諸事情により申し込みの追加またはキャンセルをする場合は、8月31日(月)まで受付けます。

4 会 期 2020(令和2)年10月8日(木)～9日(金) 2日間

5 情報発信場所 <指定授業・公開授業・記念講演・授業研究分科会・研究協議分科会>

◆大宮会場：埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園

〒331-0813 埼玉県さいたま市北区植竹町2-68

TEL 048(663)7525 FAX 048(660)1906

◆坂戸会場：埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

〒350-0221 埼玉県坂戸市鎌倉町14-1

TEL 049(281)0174 FAX 049(283)9899

6 参加会場 会員の在勤公署

7 主 催 全日本聾教育研究会 関東地区聾教育研究会

8 主管校 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

9 協力校 関東地区聾学校22校

茨城県立水戸聾学校

茨城県立霞ヶ浦聾学校

栃木県立聾学校

群馬県立聾学校

千葉県立千葉聾学校

筑波大学附属聴覚特別支援学校

東京都立大塚ろう学校

東京都立立川ろう学校

東京都立葛飾ろう学校

東京都立中央ろう学校

明晴学園

日本聾話学校

横浜市立ろう特別支援学校

横須賀市立ろう学校

川崎市立聾学校

神奈川県立平塚ろう学校

山梨県立ろう学校

長野県長野ろう学校

長野県松本ろう学校

静岡県立静岡聴覚特別支援学校

静岡県立沼津聴覚特別支援学校

静岡県立浜松聴覚特別支援学校

10 協 賛 (予定)

小川再治研究協賛会

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

公益財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部

11 後 援 (予定)

文部科学省

埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会

坂戸市教育委員会

全国聾学校長会

全国聾学校教頭会

全国特別支援学校長会

関東地区聾学校長会

関東地区聾学校教頭会

埼玉県特別支援学校長会

全国ろう学校PTA連合会

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会

1.2 大会日程 ※大会までのスケジュールや大会参加にあたってのICT機器使用方法等は別途お知らせします

日	日 程		
	ライブ配信時間	大宮会場（場所：大宮ろう学園）	坂戸会場（場所：坂戸ろう学園）
第1日 10/8 (木)	13:00～15:00	研究協議分科会	研究協議分科会
	15:30～17:00	授業研究分科会 ～幼稚部・小学部・重複部・専攻科・寄宿部～	授業研究分科会 ～中学部・高等部～
第2日 10/9 (金)	13:00～15:00	研究協議分科会	研究協議分科会
	15:30～17:00	記念講演	

※上記日程のライブ配信は同時に録画をして、大会後1週間、大会ホームページにてオンデマンド配信します

<用語の定義>

「ライブ配信」 … Web会議システムを使い、リアルタイムでやり取りを行う。または視聴すること。

「オンデマンド配信」 … 大会ホームページ上に載せてあり、事前もしくは事後にダウンロードして視聴すること。

「Web会議」 … パソコンやスマートフォンやタブレットを使用し、会員が所属場所からインターネットで会議に参加できる等のコミュニケーションができること。

1.3 第1日

(1) [13:00～15:00 [ライブ配信]] 研究協議分科会【第1部】 <大宮ろう学園・坂戸ろう学園>

①主管校が司会及びWeb会議システムの操作を行います。運営担当校は、分科会の記録を担当します。

②各分科会のレポート発表動画は、9月上旬より大会ホームページで事前にオンデマンド配信しますので、事前に視聴し、発表内容に関する質問意見を大会事務局までメールで送信していただきます。その後、事務局で関係各所に配付します。なお、オンデマンド配信開始日や、メールの送信方法及び締切日等は、大会通信第3号にてお知らせします。

No	分科会	協議主題（分科会テーマ）	助言者
		主題設定の理由	運営担当校
①	早期教育 I (乳幼児)	豊かなコミュニケーションを育み、主体的な子育て支援の在り方	信州大学 教授 庄司 和史
		乳幼児個々の発達に応じた活動を行うなかで、豊かなコミュニケーションを育み保護者・家族が前向きに子育てしていけるための支援の在り方について研究する。	東京都立大塚ろう学校

No	分科会	協議主題（分科会テーマ）	助言者
		主題設定の理由	運営担当校
③	教科学習と学ぶ力 (小学部)	豊かな思考力を育てるための小学部段階における教科指導の在り方と実践の工夫	筑波技術大学 教授 長南 浩人
		小学部からの学習は、教科書を使った指導が始まる。それぞれの教科の理解度が他の教科の理解度に与える影響も大きく、各教科のつながりも深い。また、教科学習を念頭に置きながら、小学部段階で必要な児童の思考力・判断力・表現力を一人ひとり高めるための授業工夫や指導法について研究する。	千葉県立千葉聾学校
④	教科指導 (中・高文系)	生きる力や社会的自立の基盤となる実践や指導法の工夫	大阪ろう難聴就労支援センター 理事長 前田 浩
		国語科や社会科、英語科等の学習において、社会的自立に必要な知識を習得し、主体的に解決できる態度を育成するための実践や指導法について研究する。	筑波大学 附属聴覚特別支援学校
⑧	自立活動 I (障害認識・コミュニケーション)	社会自立につながる豊かなコミュニケーション力の育成と障害認識のための支援の在り方	亜細亜大学 客員准教授 橋本 一郎
		多様化し変化の激しい社会で、聴覚障害児・者が他者と協調し、自立して生活していくためには、豊かなコミュニケーション力が必要である。さまざまな状況や場面に応じて通じ合うためのスキルや、障害認識に基づいた、セルフアドボカシーやエンパワーメント等、周囲の人々や社会に対しての働きかけについての支援や指導の在り方を研究する。	川崎市立聾学校
⑩	重複障害教育	個々の障害の状況や特性を考えた支援や集団を意識した教育活動の在り方	宮城教育大学 教授 菅井 裕行
		障害が重度重複化・多様化する中で、さまざまな専門的知識や教育活動の充実が求められる。集団の中で児童生徒が学び合い心豊かに充実した生活を送れるよう、支援や教育活動について研究する。	横須賀市立ろう学校
⑪	寄宿舎教育	異年齢集団生活の中で生きる力を育むための寄宿舎教育の在り方	國學院大学講師 東京愛育苑金町学園 児童指導員 森本行雄
		寄宿舎に入る幼児児童生徒は、通学の保障や生活習慣等生活力の向上と共に、集団生活における自治活動やコミュニケーションの中で、他者との関わりを学ぶことができる。そこから、社会性や主体性を身に付け、将来生きていくための支援について研究する。	神奈川県立平塚ろう学校
⑬	関係諸機関との連携、センター的機能	関係諸機関との連携による聴覚障害教育の充実と地域の学校への支援の在り方	大阪教育大学 教授 井坂 行男
		聴覚障害児が地域でたくましく生きるための充実した支援や関係諸機関との連携、センター的機能をどのように構築していくかを研究する。	栃木県立聾学校

(2) [15:30～17:00 [ライブ配信]] 授業研究分科会 <大宮ろう学園・坂戸ろう学園>

①指定授業は事前に収録した動画を、9月上旬より一定期間、大会ホームページでオンデマンド配信しますので、事前に視聴し、授業研究に関する質問意見を大会事務局までメールで送信してください。いただいた質問意見は指定授業担当者、指定授業担当者の所属学部、助言者にお伝えして、研究協議会の際に回答します。

②事前収録のオンデマンド配信の期間や、質問意見のメールの送信方法及び手順等は、大会通信第3号にてお知らせします。

◆研究テーマ：全体テーマ「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」◆

分科会	研究テーマ		助言者
	大宮ろう学園	坂戸ろう学園	
① 幼稚部	自ら遊び、自ら学ぶ“ろう保育”を目指して	あそびを通して、たくましく生きるろう保育	元筑波技術大学准教授 新井 孝昭
② 小学部	日本語を大切にしたいわかる授業づくり	子どもの日本語力を伸ばすための環境づくりを授業実践に活かして	筑波技術大学 教授 長南 浩人
③ 中学部	自立に向けた生徒指導、学習指導のあり方	生徒一人ひとりが主体的に取り組める授業づくり	宮城教育大学 准教授 松崎 丈
④ 高等部	社会自立に向けて主体的に学ぶ力を育てる	様々な体験を通じて、自ら学ぶ力を育てる	亜細亜大学 客員准教授 橋本 一郎
⑤ 専攻科	SSTの取組を通じて、より良い学習態度の育成		日本聴覚障害 ソーシャルワーカー協会 副会長 舘脇 千春
⑥ 重複部	コミュニケーションの力を高める	ろう重複の児童生徒に付けたい生きる力	宮城教育大学 教授 菅井 裕行
⑦ 寄宿部	寄宿舎で育む生活力	たくましく生きる力を育む寄宿舎教育	國學院大学講師 東京愛育苑金町学園 児童指導員 森本 行雄

14 第2日目

(1) [13:00~15:00 [ライブ配信]] 研究協議分科会【第2部】 <大宮ろう学園・坂戸ろう学園>

No	分科会	協議主題 (分科会テーマ)	助言者
		主題設定の理由	運営担当校
②	早期教育Ⅱ (幼稚部)	思考力や判断力を育て、コミュニケーションの力を伸ばすための幼児期の指導の在り方	元筑波大学教授 筑波大学講師 公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会 事務局長 松本 未男
		幼児期におけるコミュニケーションの力は、遊びや環境の中で育まれる。思考力や判断力、それらを総合的に身につけるための幼稚部段階の指導・支援の在り方について研究する。	茨城県立霞ヶ浦聾学校
⑤	教科指導 (中・高理系)	生きる力や社会的自立の基盤となる実践や指導法の工夫	筑波技術大学 准教授 脇中 起余子
		数学や理科等の学習において、社会的自立の基盤となる事柄の定着や主体的に探究する態度を育成するための実践や指導法について研究する。	茨城県立水戸聾学校
⑥	教科指導 (実技系)	生きる力や社会的自立の基盤となる実践や指導法の工夫	帝京平成大学 教授 藤本 裕人
		社会生活において、より自分らしく生きるための基盤となる「発想力」「表現力」「感受性」を育成するための実践や指導法について研究する。	東京都立葛飾ろう学校
⑦	言語力向上	多様な幼児児童生徒がいる中で、一人ひとりの言語力を向上させていくための指導の工夫	金沢大学 教授 武居 渡
		「言語力向上」は、ろう教育での大きな目標の一つであり、これまで続いてきた課題でもある。聴力、家庭の環境、認知の特性など多様な子ども達がいる。その中で視覚が優位な子、聴覚が優位な子、日本語が第一言語の子、手話が第一言語の子など、言語獲得・習得にいたる道筋もさまざまである。認識や思考を支え自ら学びを深めるための基盤としての言語力、特に学習言語の力まで身につけていくための多様な実践の在り方を研究する。	東京都立立川ろう学校
⑨	自立活動Ⅱ (聴覚活用、 発音・発語指 導、補聴機器)	一人ひとりの聴力に合わせた補聴機器を活かすことを前提に、聴覚学習や発音・発語学習による日本語力向上のための自立活動の在り方	同志社大学 准教授 中瀬 浩一
		補聴器、補聴援助システムの技術進歩、人工内耳装用者の増加のため、今後ますます聴覚を活用した指導力が求められる。個々のニーズに合った自立活動の授業を通して、幼児児童生徒の日本語力向上を目指すと共に、生きる力を身につける教育実践について研究する。	東京都立中央ろう学校

No	分科会	協議主題（分科会テーマ）	助言者
		主題設定の理由	運営担当校
⑫	キャリア教育・卒業後の進路	発達段階に応じたキャリア教育の推進と卒業後の支援の在り方	東京聴覚障害者支援事業所 所長 矢野 耕二
		乳幼児教育相談から高等部専攻科までそれぞれの発達段階に応じたキャリア教育をどのように推し進めるべきか、現状を報告し合いながら、ろう学校におけるキャリア教育について考える。また、ろう学校卒業後の支援について、どのような支援が必要とされるのか具体的に研究する。	横浜市立ろう特別支援学校
⑭	発達障害を併せ有する聴覚障害児に対する支援	発達障害を併せ有する幼児児童生徒一人ひとりの特性に合った指導・支援の在り方	東京学芸大学 教授 濱田 豊彦
		知的障害を伴わないいわゆる発達障害（限局性学習障害、ADHD、自閉症スペクトラム障害）を併せ有する子どもは、ろう学校においてその占める割合は高いといわれる。これまで、聴覚障害の中で、見過ごされがちだった発達障害の側面をクローズアップすることで、なかなか指導効果のあげられなかった事例について、子どもの実態を捉え直し、将来にわたって生き難さを軽減するための指導・支援について研究する。	群馬県立聾学校

(2) [15:30～17:00 [ライブ配信]] 記念講演

講師 濱田 豊彦 氏（東京学芸大学教授）

演題 「ろう教育で大ボラを吹く」

- ① 在勤公署ごとにWeb会議システムの受信環境と視聴場所の準備をお願いします。
- ② 講演中、Web会議システムのチャット機能を利用し講演内容に対する質問や意見を送信することができます。（16:30 まで受付）
- ③ 16:30～17:00 まで、講師が質問意見に対して回答します。また講演動画及び質疑応答の内容は、後日大会ホームページに掲載する予定です。

(3) 各種挨拶

大会ホームページの参加者メニューに下記の①～④の動画を配信します。

- ① 全日本聾教育研究会会長挨拶
- ② 来賓挨拶
- ③ 埼玉大会実行委員長挨拶 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園校長
- ④ 次年度大会実行委員長挨拶 島根県立松江ろう学校校長

- 15 大会参加費用 会員： 無料
 会員外： 1,200円（納入方法については大会通信第3号にてお知らせします）
 学生： 今大会はWeb大会のため学生の参加はご遠慮ください

※お願い…分科会ごとの参加人数集約のため、大会参加・研究発表等の申込みを現在検討されている場合でも、Web会議システム準備のために大会参加・研究発表等の申込み手続きをお願いします。

1.6 研究発表

- (1) 研究協議分科会の研究発表の資格は会員であることとします。なお、地区研究会に所属していない大学教員等は、本部事務局が対応、掌握の上、会員資格を得てください。

連絡先	全日本聾教育研究大会本部事務局	〒272-8560
	TEL 047(371)4135(代表)	千葉県市川市国府台2-2-1
	FAX 047(372)6908	筑波大学附属聴覚特別支援学校内

- (2) 発表者は、大会ホームページより参加申し込みの際、発表レポートの抄録(315字以内)を提出してください。
- (3) 研究発表原稿は、PDF形式のデータで提出してください。大会ホームページよりアップロードして提出していただけます。原稿様式および作成例は、大会ホームページ会員メニューよりダウンロードできます。
- (4) 発表者は、レポート発表用動画の作成をお願いします。また、レポート動画作成の方法例も大会ホームページに掲載してありますのでご視聴ください。
- (5) 発表者は、(4)で作成した動画を8月21日(金)までに大会事務局に送付してください。送付方法については別途お知らせいたします。
- (6) 感染症拡大防止のための休校措置等を図る中で取り組まれている、ICTを活用した学習保障方法など、今だからこそ必要な情報に関する報告もお待ちしています。
- (7) レポート発表用動画の作成が難しい場合は、発表を伴わない研究報告も受け付けます。
- (8) 大会終了後、レポート発表動画や研究集録は大会ホームページに一定期間掲載するとともに、全日本聾教育研究会ホームページの会員メニューにも掲載する予定です。

1.7 大会参加の申込み方法等

項目	締切日	申込み・提出先
大会参加・研究発表等の申込み	2020(令和2)年6月30日(火)	全日聾研(埼玉大会)事務局 (埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園・坂戸ろう学園) ※専用のWebフォームから申込み・提出をしてください
研究発表原稿提出	2020(令和2)年7月29日(水)	

1.8 自然災害発生時における対応

- (1) 公共交通機関に影響があり主管校の教職員が出勤できない場合は、埼玉大会を中止とし、その旨を大会ホームページに掲載します。
- (2) 大会中止の場合は、後日大会ホームページに記念講演と分科会への質疑応答や助言者の指導講評動画を掲載します。
- (3) 公共交通機関等運営に影響がない場合は、原則として予定通りの時刻で大会を開催します。

1.9 諸連絡

- (1) 今大会は初めての試みが多いため、大会通信を例年より多く発行し、参加方法や視聴方法など随時お知らせします。
- (2) 別紙にて在勤公署のICTの環境についての調査用紙に記入をお願いします。この調査は、動画配信やオンライン会議システムを活用したWeb会議を行う上で重要な情報であり、その結果を元に自治体のICT環境の実態に合わせたICTの機器使用方法を提案したいと考えています。

お手数おかけしますが、6月26日(金)必着でFAXまたはメールで回答してください。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2.0 会事務局及び連絡先

第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会）事務局

〒331-0813 埼玉県さいたま市北区植竹町2-68

埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園内

電話 048 (663) 7525 FAX 048 (660) 1906

大会実行委員長：校長 桑原 智子 大会事務局長：教諭 毛利 めぐみ

全日本聾教育研究大会（埼玉大会）事務局メールアドレス

zennichirou-saitama@ohmiya-sd.spec.ed.jp

2.1 会場地図

